

「MSC ベリッシマ」で寄港した港のクルーズ岸壁

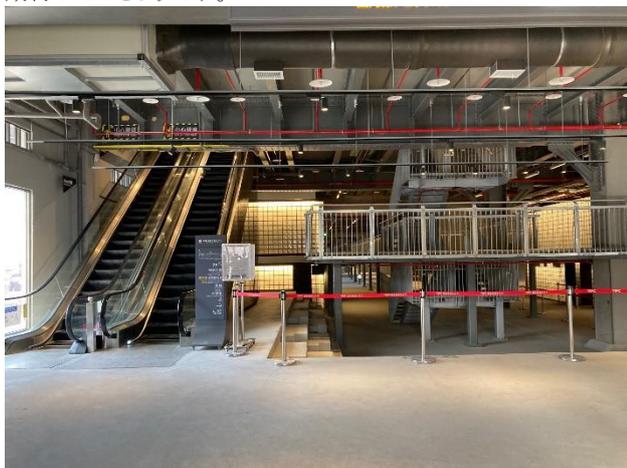
2024-1-23 池田良穂

17万総トン級の「MSC ベリッシマ」の寄港した3つの港のクルーズ岸壁の状況を写真でご紹介します。

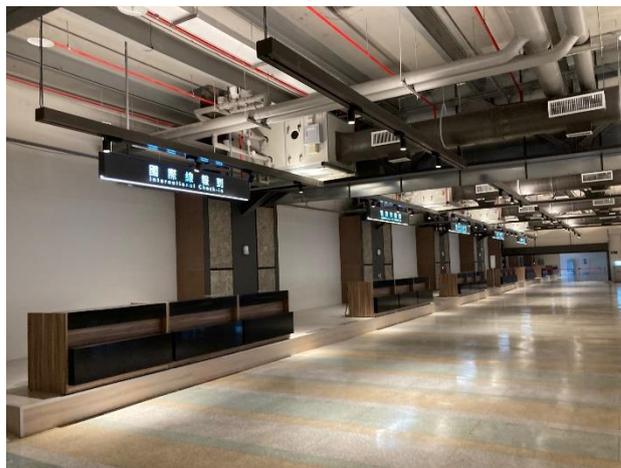
台湾・基隆港



基隆港の最奥部の西岸に整備されているクルーズ岸壁。2つの古い上屋をクルーズターミナルとして改装中で、奥の建物は内航フェリーとの兼用使用となるとのことです。台湾のクルーズ人口は、コロナ禍前に90万人に達しており、その地元マーケットの回復にも期待しているようです。



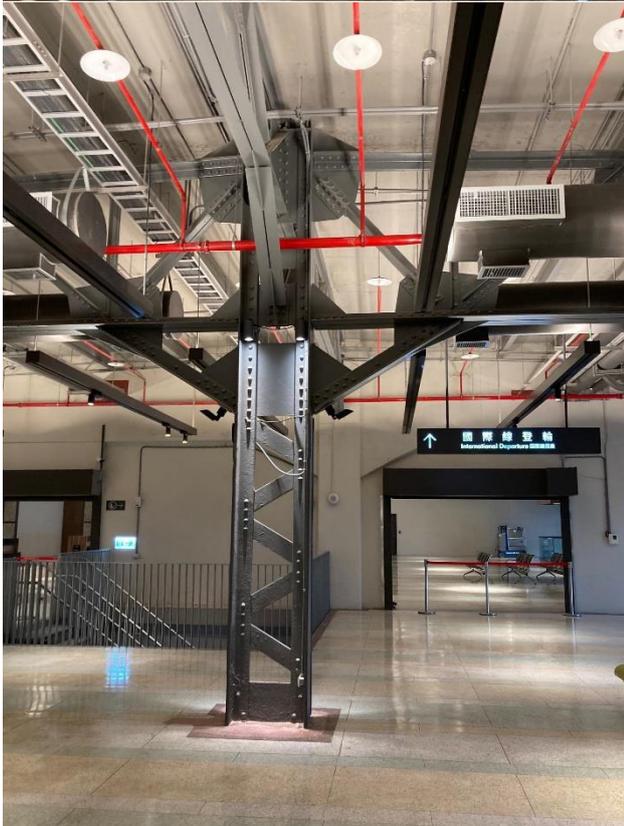
整備中のターミナル建物の入口。90年前に建てられた上屋の内部を全面改装して、今年中にオープンとのことでした。



ターミナルビル2階に整備中の受付カウンターです。内航と国際航路用の表示がありました。



X線荷物検査機



90年前に建設された上屋で、リベットで接合されている骨組みがよくわかるようになっていました。



2つの上屋は2階通路で結ばれていました。



「MSC ベリッシマ」が着岸した岸壁の対岸にある基隆港東岸の客船ターミナルです。こちらは元々、客船用設備として整備されたもので、かつては沖縄と間の定期カーフェリー等も利用していました。



港にある陽明海洋文化芸術館屋上から見た、基隆港最奥部の海洋広場の全景です。すぐ後ろに市街地が広がっています。



海洋広場からの港の全景です。昨年7月の「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」で寄港時の写真です。右が西岸の客船埠頭、左が東岸の客船埠頭で、「MSC ベリッシマ」はここに停泊しました。

石垣港



石垣港の客船埠頭に停泊した「MSC ベリッシマ」の船上から見た、港口にある海上保安庁基地です。



クルーズ岸壁にはコンクリートの通路が設置されていました。

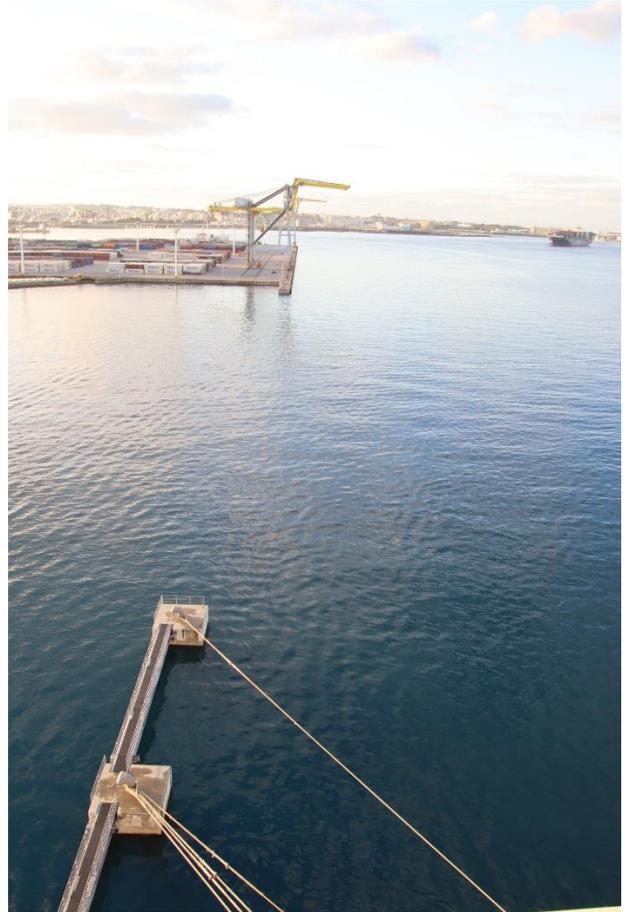


着岸した「MSC ベリッシマ」です。

那覇港



「MSC ベリッシマ」の船上から見た岸壁とテント施設です。



既存のコンテナ埠頭とほぼ一直線上にクルーズ岸壁が建設されており、大型船用にはピットが追加建設されていました。那覇港第2クルーズターミナルに着岸した「MSC ベリッシマ」の船尾デッキからの撮影です。



陸上からの撮影で、コンテナ埠頭と第2クルーズターミナルをほぼ一直線に望みました。



泊大橋の上から見た第2クルーズターミナルです。この新ターミナルの完成で、クルーズ客船の RORO 岸壁やコンテナ岸壁での供用が、ある程度解消されました。



MSC ベリッシマ着岸時の第2クルーズターミナルです。船がないと下のような写真となります。(赤井伸郎会長提供)



那覇港第2クルーズターミナルの全景です。那覇空港を飛び立つ飛行機からの撮影です。



第1クルーズターミナル(泊地区)です。上の写真の画面右の建物の陰に「MSC ベリッシマ」が停泊しており、煙突だけが見えています。この第1クルーズターミナルは市街地にも徒歩圏にあるので、寄港するクルーズ客船には便利なターミナルです。